えんどう

和名を漢字で書くと豌豆（エンドウ）です。マメ科の越冬野菜で、日本へは明治初年から導入されました。エンドウ豆には、豆を食べる“実えんどう”と豆が大きくなる前に若取りし、さやごと食べる絹さやなどの“さやえんどう”があります。どちらもエンドウ豆ですが、完全に熟して豆として収穫するのか、まだ若いさやの状態だが、中の豆がある程度膨らんでから、そのグリーンの柔らかい豆の状態で収穫するのか、はたまた、完全に若いさやの状態でさやごと食べられる位に若取りするのかで「エンドウ豆」、「グリーンピース」、「サヤエンドウ」の違いができます。

10月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

作 型

寒さには強いが、生長するにつれて耐寒性がなくなってくる。厳冬期を迎える前に敷きわらをするとともに、北側を土寄せして風よけをする。
春の生長が盛んな時期には、月に１回追肥すると草勢が維持でき収穫期間を長くすることができる。

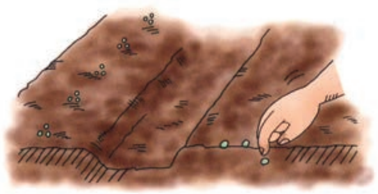
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品　種　名
普通栽培					■	■				○	○		さや取り（成駒・白花兵庫絹さや・赤花絹さや） 実 取 り（ウスイ・グリーンピース） スナック（ジャッキー・あまいエンドウ）

○：種まき　■：収穫

畑の準備・定植

土づくり　a当たり	
堆　肥	300kg
セルカ（有機石灰）	20kg
BMようりん	2kg
植え付け１ヶ月前に土と良く混合	
元　肥　a当たり	
油　粕	10kg
畝立時施用	

- １条植え：畝幅120㎝
  株間40㎝
- １ヶ所２～３粒まきとし、薄く（２㎝）覆土する。
- 種子を20℃の水に２～３時間浸し、十分水分を与えてから播種すると発芽しやすい。

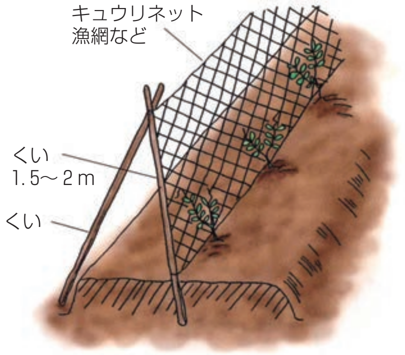


間引き

- 草丈が７～８㎝位になったら１ヶ所２本立てにする。
- 間引き後、保温のため敷きわらをする。北側を土寄せして風よけを作る。

整枝・土入れ

- 巻きひげが発生するようになったら、つるがからみやすくするためにキュウリネット、漁網等を張る。
- 枝が混んできたら、茎葉に十分光が当たるようにふところの枝を整理する。



追肥・土寄せ

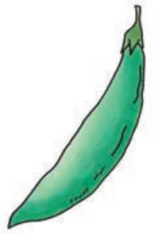
- ３月中旬：野菜専用肥料４kg/aを施用後、軽く土寄せを行う。

防 除

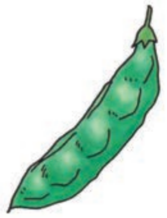
病 害 虫 名	耕 種 防 除	農薬による防除
う ど ん こ 病	風通しをよくする	サンヨール500倍　前日まで４回
ア ブ ラ ム シ	光反射テープを畝上に張る	スミチオン乳剤1000倍　30日前まで４回
ハモグリバエ		マラソン乳剤2000倍　７日前まで３回

収 穫

実エンドウ
子実がよく充実し、さやがふくれて表面が光沢を失い、ざらざらするようになったときに収穫する。



サヤエンドウ
さやが平らで、外から子実の形があまりはっきりわからないうちに収穫する。



スナックエンドウ
若さやのうちから収穫できるが、子実が大きくなって、さやの断面が円形になるくらいふくらんだ頃が収穫時期。

裏面は雑草図鑑 アメリカセンダングサ・チョウジタデを掲載しています。

雑草図鑑
アメリカセンダングサ・チョウジタデ

10月の農作業

アメリカセンダングサ

アメリカ原産の一年草。北海道を除いて、各地の湿り気のある荒れ地や道ばたに生育している。茎は暗紫色で、高さ0.5～1.5mになる。葉は長い柄があって対生し、小葉はすべて有柄で長さ3～13cmの卵状披針形。先端はとがり、縁には鋸歯がある。頭花は黄色で、上部の枝先に1個ずつつく。舌状花は小さく、あまり目立たない。総苞片は6～12個あり、葉のように大きくて目立つ。花期は9～10月。

生育後期

防除のポイント

種子は湛水条件下では発芽せず、幼植物も5cmの湛水下では生育できないが、一旦定着した後は湛水条件下でも旺盛に生育する。畦道沿いや田面の露出した部分に発生しやすく、また、イネの生育初期に浅水管理や間断灌がいとした場合にも発生する。成熟した茎は2mを超えて硬く、収穫作業に機械的障害を及ぼす。除草剤は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード（作物によって使用方法が異なるため要確認）を散布する。

生育中期

アメリカセンダングサの頭花

チョウジタデ

日本全土の水田や水湿地に生える一年草。高さ30～70cm。茎には稜があり、しばしば赤味を帯びる。葉は長さ3～10cm、幅1～2cmの披針形。表面は側脈が目立ち、秋には紅葉する。葉腋に柄のない直径6～8mmの黄色の小さな花をつける。花期は8～10月。似た花にウスゲチョウジタデがあり、茎は直立して多くの枝を分け、葉とともに細毛が多い。葉は秋期紅葉しない。花弁は萼片より長く、花床には白い毛が密生する。花弁の幅が広く、隣の花弁との隙間ができない。

田んぼに群生するチョウジタデ

防除のポイント

種子は湛水条件下より湿潤な土壌で良好に発芽する。このため、畦畔沿いや水面上に露出した田面などに発生しやすい。湛水条件下では、約10℃の気温で発芽を始める。幼植物では葉が対生し、生長すると互生になる。湛水条件下で生育した個体は白色の呼吸根（気根）をだす。漏水田などで繁茂することがある。除草剤は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード（作物によって使用方法が異なるため要確認）を散布する。

生育初期

花と茎

※農薬使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。

裏面はえんどうを掲載しています。